

くすり博物館だより

VOL. **60**

2009年(平成21年)2月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel: (0586)89-2101 Fax: (0586)89-2197
<http://www.eisai.co.jp/museum/>

特集 くすり博物館のイベント —四季を通じて—

内藤記念くすり博物館は年間約45,000名の来館者をお迎えしています。この中には、遠方から来館される方もあれば、地元の皆様もいらっしゃいます。特に地元の来館者の方には、毎月実施するイベントが大好評です。今号の『くすり博物館だより』では、今年度開催したイベントを特集します。なおイベントは、原則として電話予約で先着順にご参加いただくもので、参加費・定員はイベントごとに異なります。予約開始日・開催時間など詳しい情報は、各務原市の広報誌や地元メディアに掲載していただいたり、当館で配布するちらしでもお知らせします。今後も引き続きいろいろなイベントを開催しますので、ぜひご参加ください。

春

- 4月 カモミール摘み取り
- 5月 菖蒲湯のショウブ配布<1家族1束無料配布>
綿菓子作り<無料/参加自由>
薬草園フェスタ<参加自由>
- 6月 竹炭細工作り
かんざし(ポプリ風)作り
陶芸教室



▲カモミール

花(頭花)を摘んで、ハーブティーとして用いる。香りがよく、浴用にも用いられる。



▲ショウブとヨモギ

菖蒲湯は、端午の節句に香りのよいショウブを風呂に入れ、芳香で邪気を祓う行事である。



◀◀薬草園フェスタ

毎年、アイの生葉染めやどんぐりの工作は子どもたちに大人気。苗の販売やハーブティーコーナー、バーナーアート、軽食コーナーなど、ご家族で一日楽しめる。

夏

7月 ハーブスティック作り
ルバーブジャム作り
シソジュース作り
夏休み親子教室

8月 わくわく体験<無料>
陶芸教室



▲ハーブスティック

ラベンダーを奇数本（7,9本くらい）用意し、茎とリボンを編みこんでスティックを作る。ラベンダーは香料や浴用剤として花穂を用いる。



▲ルバーブジャム作り

ルバーブは食用大黄ともいい、酸味のある茎でジャムを作る。生のルバーブが手に入りにくいこともあり、ジャム作りは人気がある。



▲シソジュース作り

シソにはアオジソとアカジソがあり、どちらも独特の香りがある。食用とされる。くすり博物館では、アカジソとアオジソの両方を用いた香りのよいジュースを作る。



夏休み親子教室 & わくわく体験

どちらのイベントも、夏休みの宿題や絵日記制作に役立つと毎年好評です。（わくわく体験は無料です）

さおばかり作り



製薬道具体験



薬の工場見学と打錠器体験



ポマンダー作り



ポマンダーは、レモンにスパイスのクローブ（丁子；ちょうじ）を刺して作る香り玉のこと。もともとは防虫用だった。

アイの生葉のたたき染め体験



秋・冬

- 9月 レモングラス刈り取り
這い子（はいこ）人形作り
- 10月 ポプリ（笠地藏）作り
陶芸教室
- 11月 市民講演会＜無料／参加自由＞
リース作り
- 12月 クリスマス演奏会＜無料／参加自由＞
屠蘇散の配布＜1家族1袋無料配布＞
- 1月 陶芸教室
ソバ打ち体験
- 2月 ソバ打ち体験
雛人形作り



▲這い子人形

普通の這い子人形はこどもが抱いて遊ぶものだが、くすり博物館ではせんたくばさみの中に入れた小型のものを作る。



▲雛人形

もともと雛人形は魔よけとされた。くすり博物館で作るものは手にのるくらいの大きさのもの。



▲クリスマスコンサート

薬草園フェスタでアルバの演奏が好評だったことから、今回クリスマスコンサートを企画したところ、大変好評だった。ご家族連れなどで満員のホールでは、クリスマスにちなんだ歌や演奏が披露された。

◀歌と演奏▶

歌 田中 操
オカリナ 薦田 昇・郁代
ギター 久住泰一郎
アルバ(中南米のハーブ)
奥村 陽子
キーボード
中原 路子・梶田久美子
(順不同／敬称略)



▲バラの展示会

初の試みとして、10月にバラの展示会を開催した。あいにくの雨模様だったが、バラ専門会社のローズ・オブ・ローゼズの協力を得て、最近の新しい品種のバラを紹介した。

特別展示 「—内藤祐次—ひと筋に歩んできた道」がオープン

内藤記念くすり博物館・本館3階の社史コーナーのとなりに特別展示「—内藤祐次—ひと筋に歩んできた道」が昨年12月12日にオープンしました。

エーザイ株式会社前社長で名誉会長を務めた内藤祐次は、2005年10月に亡くなり、今年で丸3年が経過しました。内藤前社長の執務室を再現したコーナーや、写真パネル、ゆかりの遺品、直筆のスケッチや絵画などを展示して、これまで歩んできた道のご紹介をしています。

創業者のあとを継ぎ、今日のエーザイの基礎を築いた内藤前社長の間人像をより多くの方々に知っていただきたく、皆様のご来館をお待ち申し上げます。



▲展示風景



▲展示室入口

講演会 「くすりに対する正しい知識はこどものときから」

内藤記念くすり博物館では、昨年11月22日（土）に「くすりに対する正しい知識はこどものときから」というテーマで市民講演会を開催しました。講師には東京薬科大学教授・加藤哲太先生をお迎えしました。

2008年の3月に新しい学習指導要領の公示があり、中学校の新学習指導要領で学ぶ事項として「医薬品は正しく使用すること」という一文が加えられ、平成24年度から施行されることになりました。医薬品の適正使用に関する「くすり教育」をしっかりと中学校で行うことになったわけです。

講演会では、加藤哲太先生に「なぜ、こどものときからくすり教育が必要なのか」「どういった方法でどんなことを教えるのがよいのか」等、わかりやすくお話していただきました。くすりの適正使用協議会からも3名の方が東京より駆けつけ、実際に学校で使用可能な教育資材の説明をしていただきました。

参加者からは「自分の判断でくすりを服用してしまう時があり、学童のときからくすりの知識を与えることは非常に大切」、「非常に重要なことだと思います。小学校へも拡大されることを望みます」「いつも薬剤師の存在感の薄さを痛感しています。本日のお話で勇気が湧きました」等、くすり教育に対する前向きな声が多く寄せられました。今回の講演会が契機となり、博物館の周辺地域の学校において一日も早く「くすり教育」が実施されることを期待しています。



▲会場入口



▲当日の会場の様子

■果物の女王マンゴスチンが 開花・結実しました

1987年に導入以来、温室で栽培してきたマンゴスチンが昨年12月開花しました。マンゴスチンは、生長が大変遅く、また生育環境を著しく選ぶので栽培が難しく熱帯地方でも特定の地域で栽培されるのみです。日本では開花・結実は数例しか報告されておらず、珍しいようです。



◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

池上正治 岩下哲典 大島政文
小泉和子 榎広貫堂 榎小学館
高田都美子 長野仁 松浦葉業 榎
村橋勝子 室愛子 寄金丈嗣
～ありがとうございました～
(敬称略/五十音順)

内藤記念くすり博物館

開館 / 9:00～16:30
休館 / 月曜日・年末年始
館長 永縄厚雄
学芸員 稲垣裕美(編集担当)
学芸員・司書 野尻佳与子・伊藤恭子
庶務 森田麻起子
沼田望・千本美咲(見学受付)
薬用植物園(栽培管理)
荻谷辰行 亀谷芳明 石崎順弘
アドバイザー 逸見誠三郎